

\* 2003年11月28日発表(本リリースは、2003年11月5日に米国で発表されたプレスリリースの日本語版です)

[ご参考]

## ザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ、 2003年第3四半期の業績発表

純利益は3億4,300万ドル、1株当たり純利益(希薄化後)は1.20ドル  
2003年通期および2004年第一四半期の見通しを上方修正

[米国 コネチカット州ハートフォード 2003年11月5日]

大手保険および金融サービス会社であるザ・ハートフォード・ファイナンシャル・サービス・グループ (NYSE: HIG、以下「ハートフォード」) は本日、2003年第3四半期(2003年7~9月、以下「当四半期」)の業績を発表しました。当四半期の1株当たり純利益は、前年同期の1.06ドル(希薄化後)から1.20ドル(希薄化後)に増加、純利益は3億4,300万ドルで前年同期の2億6,500万ドルに比べ29%増加しました。

ハートフォードの会長兼最高経営責任者であるラマニ・アイアーは次のように述べています「当四半期は市場環境にも恵まれ、生命保険事業部門および損害保険事業部門ともに高水準の業績を達成することができました。総収入は前年同期比21%増を記録しました」。

さらにアイアーは、次のように述べています「年金保険については販売記録を更新し、当四半期の正味キャッシュフローは25億ドルに達しました。これは、当社の年金商品が依然、非常に高い評価を受け業界基準であることを示しています。当社が前四半期に導入した新世代の変額年金商品は、退職後資金の準備に強い関心をもつベビーブーマー世代に、予想通り高い人気を博しています。このような際立った販売額は、この商品の魅力と当社販売力の強さを示しています」。

また、記録的な経常利益を上げた損害保険事業を振り返り、アイアーは次のように続けています「当社では、損害保険事業全般にわたり利益率が拡大しており、利益目標の達成と2004年以降の業績拡大が見通せる状況にあります。地域営業網の拡大も進んでおり、2004年も高い格付けと優れた財務体質を活かして、業績拡大に尽力していきます」。

また、前年同期は1億ドル(税引後)の正味実現キャピタル・ロスを計上したのに対し、当四半期は800万ドル(税引後)の正味実現キャピタル・ゲインを計上しました。

ハートフォードの当四半期の経常利益は、前年同期に比べ30%増加しました。なお、経常利益には既発表のバンコープ・サービス社(Bancorp Services)との訴訟関連費用積み増し分4,000万ドル(税引き後)および7,600万ドルに上る2002年の税効果は含まれていません。ハートフォードの経常利益は、GAAP会計基準に準拠しない方式で算出されています。非GAAP方式に関する詳細は、後述の「非GAAP方式による財務数値の算出方法」の項をご参照ください。

2003年の1~9月通算では、第1四半期にアスベスト関連の責任準備金積み増しを実施した結果、前年同時期の7億4,200万ドルの純利益に対し、5億4,500万ドルの純損失を計上しました。また、前年1~9月通算の2億700万ドル(税引後)の正味実現キャピタル・ロスに対し、本年1~9月通算では1億4,100万ドル(税引後)の正味実現キャピタル・ゲインを計上しています。

ラマニ・アイアーは次のように述べています。「当社では今年、財務体質の健全性を維持するために、アスベスト関連で多額の責任準備金を積み増しました。責任準備金積み増しは実際に大きな負担となりますが、現在の当社の収益力がこうした負担を賄うことを可能にしました。米国議会においてアスベスト関連法が年内に立法化するかどうかに関わらず、当社では、アスベスト問題をめぐる現在の環境に対し、慎重な判断に基づき堅実な対策を講じてきたものと自負しています。」

## ハートフォードの当四半期業績の概要

- 投資商品の運用資産残高は1,317億ドル、正味キャッシュフロー（販売額から解約額とその他の引出額を引いた額）は42億ドルといずれも過去最高水準に達しました。
- 年金保険の販売額は43億ドルと過去最高水準に達しました。そのうち、変額年金保険の販売額は40億ドルと4半期ベースでは過去2番目の記録に達し、前年同期比65%の増加となりました。
- 変額年金保険の解約額は14億ドルと1999年第4四半期以来の最低水準にとどまり、変額年金の正味キャッシュフローは23億ドルに達しました。
- ミューチュアル・ファンドの販売額は2四半期連続で10億ドルを突破、前年同期比で20%増加しました。401(k)、政府向け販売が前期比で好調な伸びをみせています。
- 年金商品の保障のためのリスク管理対策を講じました。
- 損害保険事業の経常利益は1億9,300万ドルと過去最高水準に達し、前年同期比39%の増加となりました。
- 北米損害保険事業のコンバインド・レシオ(損害率と経費率との合計値)は、当四半期の災害損失7,700万ドル(コンバインド・レシオの3.4ポイント分)を含めて99.2でした。
- 個人損害保険のコンバインド・レシオは、当四半期の災害損失(コンバインド・レシオの4.2ポイント分)を含めて95.1と引き続き順調でした。
- 北米損害保険事業(事業損害保険、企業物件スペシャルティ保険および個人損害保険)の経過保険料は前年同期比14%増加し22億ドルに達しました。また、正味引受保険料は前年同期比で13%増加し23億ドルに達しました。
- 事業損害保険の新契約額は2億5,000万ドル、本年1~9月通算では7億7,300万ドルに達しました。
- 3年前に営業を開始したハートフォードの日本法人、ハートフォード生命保険株式会社では、当四半期の変額年金保険販売額が1,493億円、特別勘定の資産残高は5,351億円に達しました。
- 損害保険事業の正味資産運用収益(税引前)は、主としてキャッシュフローが順調に推移し、年初に増資を行った結果15%増加しました。
- 個人損害保険では、自動車保険クラス別の新規プランを現在28州で扱っています。
- 団体保険部門では、販売額は前年同期比14%増加し、純利益は12%増加しました。
- 個人生命保険部門では、販売額は前年同期比35%増加し、純利益は9%増加しました。
- 信託優先証券3億2,000万ドルを償還し、将来の利払い費用を削減しました。

以下の表は、事業損害保険、個人損害保険、企業物件スペシャルティ保険、再保険部門およびその他部門の引受業績と、生命保険および損害保険事業を含めたその他の全事業部門の経常利益を示しています。

事業部門別業績 (単位：100万ドル)	第3四半期(7~9月)			1~9月		
	2003年	2002年	増減	2003年	2002年	増減
<b>生命保険事業部門(経常利益)</b>						
個人年金	\$ 98	\$ 76	29%	\$ 281	\$ 255	10%
その他の投資商品	31	24	29%	87	80	9%
投資商品合計	129	100	29%	368	335	10%
個人生命保険	36	33	9%	104	99	5%
団体給付保険	38	34	12%	107	92	16%
企業加入生命保険	(30)	10	NM	(11)	20	NM
その他	(11)	55	NM	(38)	40	NM
<b>生命保険事業経常利益合計</b>	<b>162</b>	<b>232</b>	<b>30%</b>	<b>530</b>	<b>586</b>	<b>(10%)</b>
<b>損害保険事業部門</b>						
北米損害保険事業(引受業績)						
事業損害保険	20	21	(5%)	50	17	194%
個人損害保険	37	(13)	NM	92	(48)	NM
企業物件スペシャルティ保険	(50)	3	NM	(54)	1	NM
再保険	(10)	(4)	(150%)	(105)	(17)	NM
引受業績合計	(3)	7	NM	(17)	(47)	64%
その他事業(引受業績)	(12)	(42)	71%	(53)	(129)	59%
損害保険事業(引受業績)	(15)	(35)	57%	(70)	(176)	60%
正味投資収益	302	262	15%	878	787	12%
サービシングとその他の収益	9	4	125%	15	7	114%
その他の費用	(42)	(68)	38%	(161)	(162)	(1%)
法人税	(61)	(24)	154%	(136)	(75)	(81%)
損害保険事業部門経常利益— (2003年実施のアスベスト関連 責任準備金積増しを除外)	193	139	39%	526	381	38%
2003年実施のアスベスト関連 責任準備金積増し	—	—	—	(1,701)	—	—
<b>損害保険事業部門経常利益合計</b>	<b>193</b>	<b>139</b>	<b>39%</b>	<b>(1,175)</b>	<b>381</b>	<b>NM</b>
<b>持株会社による支払い利息等</b>	<b>(20)</b>	<b>(6)</b>	<b>NM</b>	<b>(41)</b>	<b>(18)</b>	<b>(128%)</b>
経常利益— (2003年実施のアスベスト関連 責任準備金積増しを除外)	335	365	8%	1,015	949	7%
2003年実施のアスベスト関連 責任準備金積増し	—	—	—	(1,701)	—	—
経常利益(損失)	335	365	8%	(686)	949	NM
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	8	(100)	NM	141	(207)	NM
<b>純利益(損失)</b>	<b>\$ 343</b>	<b>\$ 266</b>	<b>29%</b>	<b>\$ (545)</b>	<b>\$ 742</b>	<b>NM</b>
<b>1株当たり利益(希薄化後)</b>	<b>\$ 1.20</b>	<b>\$ 1.06</b>	<b>13%</b>	<b>\$ 2.03</b>	<b>\$ 2.96</b>	<b>NM</b>

ハートフォードでは、200%以上の増減、またはネット・ゲインからネット・ロスあるいはその逆の場合の変動を「NM」(該当せず)と定義しています。

ハートフォードの経常利益および 2003 年に実施したアスベスト関連責任準備金積み増しを除外した経常利益は、GAAP 会計基準に準拠しない方式で算出されています。非 GAAP 方式に関する詳細は、後述の「非 GAAP 方式による財務数値の算出方法について」の項をご参照ください。

## 投資商品

株式市場の好転を背景に、販売が伸びかつ解約は低水準に留まったことで、当四半期における投資商品事業の経常利益は改善しました。個人年金の純利益は前年同期比 29% 増加し 9,800 万ドルに達しました。投資商品運用資産残高は 2003 年 6 月末の 1,250 億ドルから 5% 増加して 1,317 億ドルに達しました。個人年金運用資産残高も 2003 年 6 月末以降約 42 億ドル増加し、2003 年 9 月 30 日現在では 885 億ドルに達しました。個人年金保険の販売は好調で、銀行および証券会社双方の販売チャネルでいずれも前年同期を上回り、証券会社チャネルでは 68% 増加し 29 億ドルに、また銀行チャネルでは 73% 増加し 15 億ドルに達しました。一方、解約率は前年同期を 27% 下回り、解約額は 14 億ドルに留まりました。定額年金保険は、金利上昇を背景に当社の堅実な料率設定が奏功し、販売額は前年同期の 1 億 5,200 万ドル、前四半期の 1 億 200 万ドルから、3 億 6,300 万ドルに増加しました。その他の投資商品の販売額は前年同期比 47% 増の 28 億ドルに達しました。

## 個人生命保険

個人向け生命保険の販売および利益は当四半期も好調に推移しました。経常利益は前年同期比 9% 増加し 3,600 万ドルに達しました。販売額は前四半期（4～6 月）比 35%、1,300 万ドル増加しました。これは主として、新商品の導入に伴い、新たなマーケティング・販売促進活動を展開したことにより、ユニバーサル生命保険の販売額が 2,100 万ドルと前四半期（4～6 月）1,100 万ドルの約 2 倍に増加したためです。変額保険の販売額は前年同期比では減少していますが、株式市場に対する信頼が回復したため、前四半期（4～6 月）比では 300 万ドル増加しました。

## 団体給付保険

団体給付保険の純利益は当四半期も増加し、前年同期比 12% 増、前四半期（4～6 月）比では 9% 増の 3,800 万ドルに達しました。これは、堅実な契約査定と支払請求管理によるものです。買収分を除いた完全保証型の販売額は、料率設定が厳しさを増しているにもかかわらず、前年同期比 14% 増の 1 億ドルに達しました。これは主として、販売拡大のため新たなマーケティング・販売促進活動を展開した結果です。

## 日本における業績

ハートフォードの日本法人であるハートフォード生命保険株式会社では、当四半期の変額年金保険販売額が 1,493 億円と、前四半期（4～6 月）比で 2 倍以上、前年同期比 4 倍以上の記録的な額に達し、特別勘定の資産残高も 2003 年 9 月末で 5,351 億円に達しました。ハートフォード生命では 2000 年の営業開始以来、順調に事業を拡大し、当四半期現在、ハートフォード全体の年金販売額の 23% を占めるに至っています。また、米ハートフォードでは、傘下の販売支援専門組織プランコ社の中に、日本における販売支援強化を目的とした専門の部署を新設しました。

## 事業損害保険

順調な市場環境、新契約料率の上昇および新契約保険料収入の拡大によって、引受保険料および経過保険料がそれぞれ 14%および 19%増加し、利益率も増加基調を維持しました。新契約の増加は特に中規模企業で順調に推移し、これにより正味引受保険料は 2003 年 1~9 月で前年同期比 14%、7 億 7,300 万ドル増加しました。コンバインド・レシオは災害損失(コンバインド・レシオで 3.2 ポイントに相当)を除き 93.3 となり、前年同期(災害損失を除く)から 1.9 ポイント改善しました。

## 個人損害保険

個人損害保険の業績は依然順調に推移しています。自動車保険クラス別新プランや IT 環境の改善などの対策を講じたため、今後も順調な業績推移が見込まれます。当四半期も全米退職者協会(AARP)の会員向け販売が拡大しており、AARP 経由の自動車/住宅保険の引受保険料は 12%増加しました。また、独立代理店を通じた個人損害保険商品の販売も 9%増加しました。当四半期の個人損害保険のコンバインド・レシオは災害損失(コンバインド・レシオで 4.2 ポイントに相当)を含めて 95.1 に留まりました。ほぼ米国内全域で適正料率が維持できており、料率引き上げ率が保険金支払費用の上昇率を上回っているため、今後数四半期は安定した業績の拡大が見込めます。

## 企業物件スペシャルティ保険

企業物件スペシャルティ保険市場においてハートフォードが絞り込んでいる分野の業績は、順調な伸びを示しました。当四半期の引受保険料は前年同期比 22%増加しました。これは、損害保険および専門職業賠償責任保険の販売が大幅に伸び、また契約条件の改善を図ったためです。コンバインド・レシオは、前年の準備金積み増しを 4,500 万ドル(コンバインド・レシオ 10.4 ポイントに相当)計上したため、110.7 と悪化しました。また、これには、当四半期の災害損失(コンバインド・レシオ 2.5 ポイントに相当)も含まれています。

## 資産運用

当四半期末現在の、固定満期投資資産(保証型分離勘定資産を含む)の未実現利益は、前四半期末から 8 億 400 万ドル減少して 43 億ドルとなる一方、未実現損失(保証型分離勘定資産を含む)は、2,200 万ドル増加し 3 億 8,200 万ドルに達しました。これは、いずれも主として金利上昇によるものです。また、当四半期の不良資産は信用市場の改善を反映して、前年同期の 1 億 7,500 万ドルから 2,900 万ドル(税引前)に減少しています。当四半期の平均運用利回りは、金利低下に伴い税引前で前年の 5.9%から 5.6%に、また税引後で 4.1%から 3.9%にそれぞれ低下しました。

## 2003 年の見通し

各事業部門の大半で業績の順調な推移が見込めるため、2003 年度 1 株当たり経常利益の見通し(希薄化後)を 5.20 ドル~5.30 ドルのレンジに引き上げました。従来の見通しは 1 株当たり 5.10 ドル~5.25 ドルでした。なお、いずれの見通し幅も、正味実現キャピタル・ゲイン/ロス、2003 年第 1 四半期に実施したアスベスト関連責任準備金積増および当四半期のバンコープ社関連の訴訟費用は除外しています。2003 年通年の 1 株当たり経常利益の見通しは次表の通りです。

	1株当たり利益の幅	
	下限	上限
1株当たり経常利益(希薄化後) 前回見通し	\$ 5.10	\$ 5.25
1株当たり経常利益(希薄化後) 新規見通し(1)(比較基準)	5.20	5.30
バンコプ・サービス社訴訟費用	(0.15)	(0.15)
アスベスト関係準備金積み増し(2) 逆希薄化効果除外	(6.24) 0.03	(6.24) 0.03
正味実現キャピタル・ゲイン(3)	0.51	0.51
1株当たり正味損失見通し(3)	\$ (0.65)	\$ (0.55)

- (1) 通年の見通しは、希薄化後加重平均株式数を2億7,410万としています。
- (2) 第1四半期のアスベスト関係準備金積み増しは、1株当たり利益に6.66ドルの影響がありました。第1四半期の1株当たり利益の計算では、加重平均発行済基本株式数を2億5,540万株としています。通年の見通しでは、加重平均発行済基本株式数を2億7,250万株と想定しています。
- (3) 2003年9月30日計上の1億4,100万ドルの正味実現キャピタル・ゲインは、当四半期利益には含まれていますが経常利益には含まれていません。第4四半期に関しては、実現キャピタル・ゲイン/ロスは除外しています。

## 2004年の見通し

現時点のデータに基づき、2004年度の1株当たり経常利益(希薄化後)の見通しを5.65ドル~5.95ドルとします。なお、この見通しでは正味実現キャピタル・ゲイン/ロスは除外し、2004年の米国株式市場の上昇率を約9%と想定、損害保険の災害損失は過去の平均値並であるとの前提を用いています。これ以外にも下記を前提としています。

- ・従業員福利制度費用の約15%上昇
- ・ハートフォードの普通株1株当たり株価が約57ドル以上に値上がりした場合、エクイティ・ユニットの株式転換による希薄化効果が拡大
- ・死亡率、損害率、金利または税法の変更など業界の基本事項

2003年および2004年の見通しは、生命保険事業および損害保険事業に影響を及ぼす市場の諸条件の変化によって変更される可能性があります。これらの要因には、株式市場の変動に伴う投資商品の経常利益見通しの変化、予想を超える災害損失の発生、当社が定期的に行う全保険部門に対する損失準備金の見直しによる影響などがあります。

## アナリスト説明会

当社は2003年11月6日午前10時(東部時間)にアナリスト説明会を行い、当四半期の業績、2003年の経常利益の最新見通し、および2004年の経常利益の見通しを発表しております。スライド・プレゼンテーションは、当社のウェブサイトでご覧いただけます。  
([www.thehartford.com/ir/index.html](http://www.thehartford.com/ir/index.html))

### 非 GAAP 方式による財務数値の算出方法について

本リリースでは、ハートフォードの業績の分析に「非 GAAP 方式」を用いています。ここで使用している当社の算出方法は、他社の算出方法と異なる可能性があるため、投資家の皆様は、当社の「非 GAAP 方式」のデータと他社のデータを比較される際には十分な注意が必要です。

ハートフォードでは、業績を評価する上で、経常利益を重視しています。経常利益とは、純利益から税引き後の実現キャピタル・ゲイン(ロス)を除いた数字になります。当社は、投資家の皆様に当社の業績を正確に把握していただく上では、変動の激しいキャピタル・ゲイン(ロス)を除いた経常利益が重要な目安になると考えています。純利益は GAAP 基準に則った会計数字となっています。当四半期、2003年1~9月、および2002年における経常損益から純損益への調整と経常損益の算出方法については上述をご参照ください。

また当社では、投資家の皆様に既存事業の健全性を理解していただくために、2003年に実施したアスベスト関連の責任準備金積み増しは過去の事業に関連するものとし、税引き後のアスベスト関連の責任準備金積み増しを除外した経常利益を報告しています。純利益は GAAP 基準の数字となっています。2003年に実施したアスベスト関連責任準備金積み増しを除外した当四半期、2003年1~9月、および2002年における経常利益に対する純損益の調整と経常損益の算出方法については上述をご参照ください。

本リリース中の2003年の見通しにおいて、経常利益とは、純利益から、税引き後の実現キャピタル・ゲイン(ロス)、第1四半期に実施したアスベスト関連責任準備金積み増し、および第3四半期に実施したバンコープ・サービス社(Bancorp Services)との訴訟関連費用積み増しを除いた数字としています。当社では、投資家の皆様に当社の業績を正確に把握していただくためには、このような財務数値の算出方法が相応しいものと考えています。なぜなら、キャピタル・ゲイン(ロス)の影響は変動が激しく、アスベスト関連責任準備金積み増しの影響は過去の事業に起因するものであり、また、バンコープ社関連訴訟費用は通常の事業とは無関係なためです。純利益は GAAP 基準に則った会計数字となっています。当社の2003年の経常利益見通しから純利益見通しへの調整と経常利益見通しの算出方法については上述をご参照ください。

引受保険料は予見的記述であります。当社では損害保険事業の業績を表す重要な要素とみています。引受保険料は決算年度に発行された保険契約に見合う保険料総額となっているため、投資家の皆様は、この数字を参考にハートフォードが現在販売中の損害保険商品の傾向について理解を深めていただけます。経過保険料は、GAAP 基準による会計に最も近い数字になっており、決算年度において収益と認められる保険料の総額を表します。引受保険料と経過保険料との差額は、未経過保険料積立金の変化に拠るものです。

ハートフォードに関するより詳細な財務情報の入手をご希望の方は、当社のホームページ([www.thehartford.com](http://www.thehartford.com))にアクセスして The Hartford's Investor Financial Supplement のページをご覧ください。

本リリースには、1995年私募証券訴訟改正法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)において定義されている将来の見通しに関する情報が含まれています。これには、当社の業績及び事業見通しが含まれます。投資家の皆様は、このような将来の見通しに関する情報が、当社の将来の業績を保証するものではなく、また実際の業績は大きく異なる可能性があることをご了解願います。また投資家の皆様は、こうしたリスクおよび不確定要素は将来の当社業績に影響を及ぼす可能性があることをご理解ください。

このような重要なリスクおよび不確定要素として、今後のアスベスト訴訟の展開およびその他の環境問題に係わる訴訟の展開が当社に及ぼす影響などが上げられます。特に現在係争中のマッカーサー社およびその子会社であるウェスタン・マッカーサー社との間の決着、同時多発テロ事件に関連した被害理論、損失額、新事実の展開、2003年雇用と成長のための減税調整法 (Jobs and Growth Tax Relief Reconciliation Act of 2003) における、とりわけ長期キャピタル・ゲインや配当配分の税率引き下げに伴う影響、再保険契約を締結している再保険会社の対応、再保険料率引上げに拠る影響、将来の損失を回収するために適切な再保険契約締結の可能性、年金商品の支払い義務に関連し、株式市場の変動が当社の財務体質や業績に与える影響を効果的に軽減できない可能性、また予想を上回る損害発生の可能性、経済および景気の悪化の可能性、予想を上回る発生率・規模の自然災害または事故の可能性、金利および株式市場またはその他金融市場の変動の可能性、予想を上回り競争が激化する可能性、当社に不利な規制・法律の制定・司法判断の可能性、当社が現在および将来とも販売チャネルを通じて商品を提供できる可能性、保険金請求問題・担保問題の発生の影響、保証積立金・再発傷害積立金・その他強制的保険プールに対する賦課金および課徴金の影響、保険金支払能力・財務的健全性・信用格付け格下げの可能性、当社に対する子会社の配当支払能力、フォーム 10-Q による当社の四半期報告書・フォーム 10-K による当社の年次報告書・その他 SEC への報告で説明している事項により当社に損失が生じる可能性、などが上げられます。なお、当社では、本リリース発表後にその内容を更新する義務を負いません。

< この件に関するお問い合わせ先 >

ハートフォード生命保険株式会社  
コーポレート・リレーション部  
ブルース・エルズワース(日本語可)  
橋詰 千寿子  
電話: 03-5777-8083/8564  
[bruce.ellsworth@hartfordlife.com](mailto:bruce.ellsworth@hartfordlife.com)  
[chizuko.hashizume@hartfordlife.com](mailto:chizuko.hashizume@hartfordlife.com)

ギャビン・アンダーソン・アンド・カンパニー  
笠原佳世  
宮川真理  
電話: 03-5404-0640  
[kkasahara@gajapan.co.jp](mailto:kkasahara@gajapan.co.jp)  
[mmiyakawa@gajapan.co.jp](mailto:mmiyakawa@gajapan.co.jp)